北方山草（36）：53-59. March 2019

花めぐり　湿地めぐり　2018

雨竜町　佐々木　純一

田舎のあぜ道は最強の観察地

北海道でも豪雪地帯の石狩平野北部の4月上旬、雪解けを待ちわびてハクチョウやマガンたちが舞い降りる。春を告げる鳥たちだ。コブシがこげ茶色の雑木林に色を添え、カタクリやエゾエンゴサクからニリンソウ、エゾイチゲ、キバナノアマナ、フクジュソウが、沢でエゾノリュウキンカ、ミズバショウと春植物が近郊で楽しめるのが田舎の特権です。

そして最強の観察地が「あぜ道」、時期ごとにときめきがあります。田起こしのあぜを黄色く染めるエゾキンポウゲの群落(図1)、トラクターが走る緑の中に数百本の黒い群落は毎年増えているクロユリ(図2)、稲穂が出始める頃に咲くミズアオイは夏空に映える(図3)。環境省レッドリスト2017で準絶滅危惧種(NT)、農業雑草で除草されNT種指定まで減少したが、この水田域は毎年群生して除草剤耐性個体群と言われている。青紫色の花被片6枚で、6本の雄しべは1本だけ長く葯が紫色、残りの葯は黄色で粋な花です。

あぜ道観察は所有者に一声断わってから楽しいお花見を。

恒例の道央圏湿原花めぐり

越後沼、月ヶ湖湿原、宮島沼、美唄湿原の春5月からの花めぐり。月ヶ湖は大沼・小沼の湿原形態が多様性に富み、楽しみが多い湿原です。6月初旬でゼンテイカが咲き、オオバタチツボスミレに大沼にはホッカイコウホネの浮葉と抽水葉。高層湿原帯には季節ごとにツルコケモモ、イソツツジ、トキソウ、カキラン、エゾホシクサ、ホザキノミミカキグサ、ムラサキミミカキグサ、ヤチスギランとマニア向きまで。でも春はタテヤマリンドウをお見逃しなく(図4)。

宮島沼周辺ではチョウジソウを(図5)、美唄湿原は7月にサワランを、気紛れで咲かない年もありますが。越後沼ではヨシ原を漕いでカラフトカサスゲを探そう(図6)。道内3ヵ所(全国でも)、確認第1号が雨竜沼、そしてニセコ山中の往復6時間の湿原、それより越後沼で2m以上のヨシ原を漕いで沼畔までがずっと楽。花期は5月下旬、でも沼に落ちないように。この4湿原、1日でグルッと楽しめますが10–20年前の方が植物は多かったように思います、乾燥化でしょうか。

雪解けの雨竜沼湿原　ミズバショウの詩

6月初旬の「沖縄より暑い北海道」で、湿原の雪渓が一気に消失した雨竜沼。目覚めた後の低温長雨で芽吹きが遅れた湿原なのに、ミズバショウには最適環境の6月中旬は雪解け水が流れる斜面を白い仏炎苞が満天の星のように、川の中で「天の川」のように輝いて幻想的でした(図7)。

山地のミズバショウは仏炎苞が先に開き発熱して虫たちを集め、葉は遅霜を避けるように遅れて開くために、白い仏炎苞が美